

## 【「先行オーガナイザー」について学んでみよう】

### 1. 先行オーガナイザーとは

「6つのルールと18の書き方<sup>注1)</sup>」の中の「ルール1・書き方3：枠組みを冒頭に書く」は、先行オーガナイザーの考え方に基づく内容です。ここで、枠組みとは、「目的・方針・手順」のことです。

先行オーガナイザー<sup>注2)</sup>とは、学習者に対して学習する前にあらかじめ提示する枠組みのことです。これは、アメリカの教育心理学者のデイヴィッド・オーズベルが提唱した学習方法に関する考え方です。この学習方法とは、「新たに学習する内容に関する抽象的あるいは概念的な枠組みを先に提示しておく、新たに学習する内容が理解しやすくなる」という内容です。

例えば、先生が生徒に何かを教える場合、はじめに、「今日学ぶことは〇〇のようなことです」のようなことを話すことです。これを話すことで、生徒はこれから学ぶことが理解しやすくなります。ただし、〇〇は生徒がすでに知っていること（内容）です。

本に書いてある「はじめに」や「目次」は先行オーガナイザーのようなものと考えられます。本を読む前にこれらを読むと本の内容が理解しやすくなるからです。

注1)：『6つのルールと18の書き方』とは」の資料を参考のこと

注2)：先行オーガナイザーとは認知心理学に関わる用語です。認知心理学とは、1960年代以降に台頭した心理学の一分野です。人間の知覚や記憶、理解と学習、問題解決などについて研究する心理学です。

### 2. 先行オーガナイザーについて具体的に考える

先行オーガナイザーについて具体的な例で解説します。認知心理学には「短期記憶と長期記憶」という用語があります。この用語を説明する場合、例えば、以下のように説明します。

これから説明する短期記憶と長期記憶とは、これらをコンピューターに例えると、短期記憶とは“メモリ”，長期記憶とは“ハードディスク”のようなものです。

コンピューターの知識があれば、メモリとハードディスクの機能が先行オーガナイザー（枠組み）となります。ただし、メモリとハードディスクの機能が先行オーガナイザーとなるためには、コンピューターの知識を持っていることが条件です。

すなわち、メモリの機能が短期記憶に対応し、ハードディスクの機能が長期記憶に対応することがわかります。その結果、「これから説明を聴く短期記憶と長期記憶とは、メモリとハー

ドディスクの機能のようなものだ」と理解できます。頭の中にあるメモリとハードディスクの機能という枠組みに沿って短期記憶と長期記憶の説明を聴くことから、聞き手は、短期記憶と長期記憶の説明が理解しやすくなります。

### 3. 業務報告書の冒頭に枠組みを書くことを考える

「書き方3：枠組みを冒頭に書く」を使って業務報告書の冒頭に枠組み（目的・方針・手順）を書くことを考えます。具体的には、業務報告書の冒頭に「業務の目的・業務の方針・業務の手順」を書きます。冒頭に書いてある「業務の目的・業務の方針・業務の手順」を読むことでこれらが先行オーガナイザー（枠組み）となり頭の中に入ります<sup>注3)</sup>。頭の中にある「業務の目的・業務の方針・業務の手順」というこの枠組みに沿って業務報告書を読むことから業務の内容が明確に伝わります。

注3)：「業務の目的は何か、目的に対してどのような方針で業務を行うのか、この方針に対しての業務の手順は何か」が頭の中に入ります。つまり、業務の軸となる内容が頭の中に入ります。

このように、「目的・方針・手順」の記述が必要な技術文書を書く場合に「書き方3：枠組みを冒頭に書く」を使います。

以 上